

沖縄県糸満市「ジョウアキー」

宮内 貴久*

2018年10月28日に沖縄県糸満市で行われた墓開き「ジョウアキー」という行事を動画を使って報告した。

門中

沖縄には「腹（ハラ）」、「門中（ムンチュウ）」と呼ばれる父系親族集団、お墓を共有する血縁集団組織がある。今回調査したのは、沖縄県糸満市の上米次腹・宇那志門中（ウィーグムチバラ ウナシムンチュウ）である。

糸満の門中は琉球王朝時代に最初は7腹あり、それに6腹が加わり糸満の村落の基礎が出来た。現在は40腹ある。

宇那志門中の祖先は七男一女で、女は座久仁腹（ザクジン）に嫁入りした。そして座久仁腹と共同で上米次腹門中墓（ウィーグムチバラ ムンチュウバカ）を造ったと伝承されている。（写真1 墓の由来）兄弟の親元は、高嶺間切 真栄里村（タカミネマギリ メーザトムラ）の上米次（ウィーグムチ）である。

上米次腹は宇那志門中（ウナシムンチュウ）、保才門中（フセームンチュウ）、玉城門中（タマグスクムンチュウ）から構成されている。

葬法

葬法には遺体を土に埋める土葬、遺体を焼却す



写真1 墓の由来

る火葬、遺体を一定期間、大気中に放置する風葬、遺体を川や海に流す水葬などがある。日本本土ではかつては土葬が主流だったが現在は火葬が一般的である。沖縄、奄美諸島などでは遺体を墓や洞窟などに一定期間放置する風葬が行われていたが、現在は火葬が一般的である。

日本本土では遺体の処理が一回のみの一次葬である。それに対して沖縄、奄美諸島などでは遺体の処理を二回行う二次葬である。墓や洞窟などに放置されていた遺体を取り出し、女性が遺体を洗浄して骨だけにする洗骨儀礼が行われていた。今日は火葬なので骨を洗うことはない。

墓

上米次腹・座久仁腹は墓を二つ持っている。ひとつはトーシー墓と呼ばれ、一次葬で遺体を安置（風葬）する墓である。（写真2 トーシー墓）墓の地面には遺体を順番に安置するために石が敷か

*お茶の水女子大学・教授



写真2 トーシー墓



写真5 ユーチー墓外観



写真3 トーシー墓地面



写真6 ユーチー墓広場

れている。(写真3 トーシー墓地面) 現在は火葬なので奥の棚にイロハと数字順に骨壺が安置されている。(写真4 トーシー墓内部)

ユーチー墓はトーシー墓から車で5分ほどの場所にある。(写真5 ユーチー墓外観) (写真6

ユーチー墓広場) 当日、漆喰で固められていた石蓋(墓口)が開けられる。内部は高さ約2メートル、幅約4メートル、奥行き約6メートルで真ん中に通路があり、左右に「イケ」と呼ばれる合葬場がある。(写真7 ユーチー墓内部説明メモ) (写真8 イケ) 右側が上米次腹、左側が座久仁腹の骨が納骨される。イケには風葬が行われていた時と推定される大腿骨があった。(写真9 イケの古い骨)



写真4 トーシー墓内部

トーシー墓での儀礼

M家は昨年Mの母親が亡くなった。参加者はM、妻、本土の大学に通う息子、娘の四人である。(写真10 トーシー墓口) 墓前に香炉を置きガスバーナーで線香に火を付ける。Mと息子が頭からトー



写真7 ユーチー墓内部説明メモ



写真9 イケの古い骨



写真10 トーチー墓口



写真8 イケ

シー墓に入る。Mが骨壺を持ってお尻から外に出る。出るとき外にいる介助役の男性がサンサーで体を清める。(写真11 サンサー) 骨壺が屋外に出されると黒い傘がさされる。傘をさして徒歩で洗骨の会場に向かう。(写真12 黒い傘)



写真11 サンサー

洗骨儀礼

会場に着くと泡盛で手を清める。骨壺上部に頭骨、下部にその他の骨が収骨されている。骨壺か



写真12 黒い傘

らテーブルに頭骨を手前に、その他の骨を奥に取り出す。頭骨に時計回りに三周泡盛をかける。その他の骨にも同じようにする。紙に頭骨が上になるように収められる。骨壺は娘の手により割られた。

ユーチー墓での儀礼

ユーチー墓に移動する際も黒い傘をさしていた。墓口に着くと墓前に香炉を置き、ガスバーナーで線香に火を付ける。(写真13 ユーチー墓口) (写真14 ユーチー墓香炉) Mと息子が頭からトーチー墓に入る。右側のイケの奥に頭骨を斜めにし収骨し、その他の骨は手前側に収骨する。墓を出るときはトーチー墓と同じでお尻から外に出る。出るとサンサーで体が清められ、すべての儀礼は



写真14 ユーチー墓香炉

終了した。夜はM家関係者で糸満市内の食べ放題焼き肉屋で飲食した。



写真13 ユーチー墓口